はんざき物語（ものがたり）

岡山県　旭川

今から400年ほども昔のはなしです。岡山県を流れる旭川の上流に龍頭が淵とよばれる深い淵がありました。まわりには木がおいしげり、無気味なほど静まりかえっています。淵にそって一本の道が細々とつづいていましたが、めったに人が通ることもありません。というのもこの淵にはおそろしいうわさがあったからでした。

「そうなんよ、村のものならだれでも知っとるでえ、あの淵にはな、ばかでかいばけものがすんどるのよ」

「そのばけものは、はんざきちゅうてな、淵の底からいきなりあらわれると、でっかい尾をふってな、人でも牛でも淵にかきこんで、あっというまにのみこむんやてえ」

こんなうわさがひろがったのではとても淵のそばなど通れません。川上の村に行くのにも、ひと山もふた山もこして、とおまわりするしかありません。村人たちはたいへんこまっておりました。

そんな村人たちのこまったようすを聞いて、村はずれにすむ三井彦四郎という若者が

「はんざきがどんなばけものかしらないが　わしが退治しちゃる」

おどろいたのは村人たちです。

「そりゃ　むちゃじゃ　ひとのみにされるけん」

「ばかなこと　やめとけやめとけ　死ににに行くようなもんじゃ」

みんなは止めようとしましたが、彦四郎はいっこうに気にするようすもなく淵へとでかけていきました。

淵にやってきた彦四郎は腰にひもをむすび、短刀を口にくわえるとザンブとばかりに淵にとびこんでいきました。そのようすを村人たちは、とおくからおそるおそる見ておりました。ところが、しばらくたっても淵はいつもどおりに静まりかえったままです。

「こりゃいけんなあ　彦四郎のやつ　はんざきにのみこまれたかもなあ」

「だからやめとけというたんじゃ」

と、村人たちが話しあっているときでした。淵の水面に赤黒い血のようなものがうかびあがってきたかとおもうと、つづいて大きなはんざきが、うかびあがってきたのです。

「たいへんじゃ　はんざきがでてきよったあ」

「ややや　よう見てみい　はんざきが口から血をだして死んどるでえ」

村人たちは大さわぎしながら死んだはんざきをひきあげました。するとはんざきのお腹を内がわから短刀で切りさきながら彦四郎がはいだしてきたのです。

「ありゃありゃあ　こりゃあ　おどろきじゃあ」

「のみこまれてから　はんざき退治するとはなあ　さすが彦四郎じゃ」

「これで淵の道も安心して通れるでえ　ありがたいことじゃ」

彦四郎のはんざき退治はひょうばんになり、ちかくの村々や旅人にまで、かんしゃ

されました。

ところが、このことがあってまもなくのことです、村にへんなうわさがたちはじめました。

「このごろ毎晩のことや　真夜中になるとな彦四郎の家の戸を　どんどん　どんどんとたたきながらな　泣きさけぶこえがするんやてえ」

「だれが泣いとるんや」

「それがな　気味悪いことに戸をあけてもだれもおらんのやて」

「こわいこわい」

おそれた村人たちは、日が暮れると戸をしっかりしめて、外にでるものはいなくなりました。そして、にぎやかだった彦四郎の家にも、だれもちかづかなくなりました。おまけに不幸つづきで、とうとう彦四郎一家は死にたえてしまったのです。

そればかりではありません。無気味なことが村にまでおこりはじめたのです。きれいな旭川の流れがわけもなくにごったり、はやり病いがおこったり、水がかれたり悪いことばかりがつづきます。

「たたりじゃ　はんざきのたたりじゃあ」

「あの泣きさけんでいたこえは　はんざきの霊じゃったのよ」

村人たちは、はんざきや彦四郎のことはきのどくだとは思っていても、その後なにもしていないことに気がつきました。さっそく村中でそうだんし、はんざき大明神の祠をたててまつり、彦四郎の霊もまつってなぐさめました。

こうして村にはやっと平和がもどってきたのでした。

はんざきが棲むという旭川

このお話は岡山県湯原町の伝説を再話したものです。お話の中から、人の勝手で川の生きものをむやみに殺してはならない、大切にしていかねばならない、という昔の人たちの教えを感じさせられるお話でした。

「はんざき」とは、国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオのことです。大きなものでは体長が1メートル以上にもなるという世界最大の両生類です。お話のはんざきのように人や牛をのみこむようなオオサンショウウオなんていませんが、もともと生命力がつよく、なかには100年も生きるものもいるそうです。

「はんざき」という地元での呼び名には、身体を半分さかれても生きていたとか、大きな口をあけると身体が半分さけたように見えるから、などの説があります。生きた化石ともいわれるほどのオオサンショウウオですが、その数は減っています。オオサンショウウオが生きてゆける川の自然が少なくなっているからでしょうか。旭川は長さ142キロメートル、岡山県で一番大きな川ですが、その上流部湯原町あたりはオオサンショウウオの生息地として有名なところで、町の「はんざきセンター」ではオオサンショウウオをみることができます。また「はんざき大明神」の祠もあり毎年8月8日には「はんざき祭り」がおこなわれています。